

新宮山彦ぐる一ぶ紹介

新宮山彦グループは昭和49年(西暦1974年)4月28日に発足した。「山を歩いて自然に親しみ、体験を通してモノを考えよう」という趣旨で「入会金、会費、会則ナシ」(但し、山行・行事毎に必要な経費を徴収し作業は無料を建前)。これらの参加は自主目的で、以来活動を継続して現在に至っている。

昭和59年(1984年)から従来の登山一辺倒より、奥駈葉衣会を主宰して亡くなられた前田勇一氏の遺志である「さびれた大峯・南奥駈の道をよみがえらせ、日本古来の精神文明を見直そう」に共鳴して、荒れ果てて通行不能となっていた南奥駈道(太古ノ辻～熊野本宮≒45km)の刈拓きを、修験行者の千日回峰行になぞらえて“千日刈峰行”と銘打ち、三ヵ年、47名が24回の出動(延315日)で貫通した。

スズタケを主とした竹の繁殖力は旺盛で、一巡した刈跡にはこれらの芽が吹き出しており、二巡目として足かけ二年、40名が延174日で再整備したものである。

「道が良くなったが、玉置神社から持経宿は遠過ぎて一日行程では歩けない」と言うこととなり、これでは前田翁の遺志は顕現出来ず、安全安心して歩いて頂くため万難を克服して、佐田ノ辻(十津川村と下北山村の境界)に行仙宿小屋を敷地造成の上、皆様に浄財を募り建築(平成2年6月完成)し、併せて倒壊寸前の平治宿山小屋も翌平成3年(1991)に改築し、持経宿・平治宿・行仙宿の山小屋を管理することとなり、従来の山行オンリーから軸足をこれら3棟の山小屋及び南奥駈道の補修・維持管理の奉仕活動が主な活動になっています。

- 我々の長年に亘る活動に対して各方面より可成り高い評価を受けることとなったが、その一例として
- その一；平成16年(2004年)紀伊山地の霊場が世界文化遺産に登録された折、大峯修験の道が組み入れられたのは、我々南部の開拓と山小屋建築が高く評価されたと聞いている。
 - その二；上記に関してシチズン社より平成17年(2005年)、シチズン・オブ・ザ・イヤー賞を贈られ、賞金壱百萬円を頂いた。
 - その三；小泉内閣の財務大臣として構造改革に大変貢献された塩川正十郎先生が、平成19年(2007年)に当山彦ぐる一ぶにご加入下さり、平成27年9月にご逝去されるまで、名誉会長として推戴させて頂いた。この間、先生より毎年10万円の特別会費を頂いた。
 - その四；平成28年11月、社会貢献支援財団から「第47回社会貢献者表彰」を受賞した。

南奥駈道の貫通と山小屋建設が相まって、修験各教団や個人修行者並びに意欲のある登山者も随分と分け入って来られる様になったが、積極的、意欲的な方が多く、これらの方々との交流、触れ合いから随分と多くの事を学ばせて貰い、奉仕活動は他人にすると同時に自己にとっても大変有意義となる事を学んでいる。

新宮山彦ぐる一ぶは、これら諸行事はすべて強制するものではなく、自発的な参加を建前として発足以来続けている。但し、仲間として認められる者には連絡するものの、音信不通者は退会したのものとして連絡を絶つ方式は、これからも続ける方針で、意欲ある奉仕の心篤い方々の協賛を願っている。
この世は自分だけのものではなく、広くみんなの暖かい気持で支え合っているという理念でいきたい。

現在、新宮山彦ぐる一ぶの趣旨と奉仕活動に賛同して、関東から中国地区に会友が50～60名おられますが、新宮市周辺主体に近畿地区の方々と普段は10～20名で活動をしています。

初代世話人代表；玉岡憲明 〒647-0052 和歌山県新宮市橋本1丁目4-11 TEL0735-22-5671
平成25年4月から世話人代表が交代し、相談役、庶務・会計(事務局)の新組織にする。
平成29年12月に世話人4名を補充選任した。

- ◇元名誉会長；故塩川正十郎氏(H27.09.16 ご逝去、93歳。平成19年～平成27迄在籍)。
- ◇名誉会友；茂原 治(医療法人やまびこ会 腎・循環器もはらクリニック院長)。
- ◇相談役；玉岡 憲明(前世話人代表)。
- ◇世話人代表；川島 功 〒519-5701 三重県南牟婁郡紀宝町鶴殿 514 Tel0735-32-1515
- ◇庶務・会計(事務局)；沖崎 吉信 〒647-0042 和歌山県新宮市下田 1-2-4 Tel0735-22-4558
- ◇世話人；山上皓一郎、川島 功、沖崎 吉信、前田 正、生熊敏男、瀧本昭太郎、村吉光夫、乾 克己。児嶋道夫、濱野兼吉、梶野照雄、中前 偉。